

地歴公民(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部(人間・社会情報学科)(前期) 1 / 2

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

論述・記述・選択

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問は3題で、出題分野は自然環境、都市・村落と人口、人口・経済・環境についての設問であり、昨年の河川や自然環境、漁業および海運、日本の輸入とは異なる。

その他トピックス

問題Ⅱ問2において、「300字以内で説明しなさい」という字数指定のある設問が出題された。名古屋大学では、2016年に問題Ⅳ問3において、「80字以内で説明しなさい」という設問が出題されて以来である。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 描図	自然環境	問1では、阿賀野川下流域の氾濫原の地形図(地理院地図)に関して、地形条件から集落分布、土地利用、自然災害とその対策について説明が求められた。問2では、新潟とサンフランシスコ、ソウル、チュニスの気候表(月別の平均気温と降水量)をもとに、都市判定、新潟のハイサーグラフの描図、季節風が日本列島の日本海沿岸の冬季の気候に与える影響の説明、日本列島に広く分布する土壌の特徴の説明が求められた。いずれも教科書に準拠した基本的な設問である。	標準
II	選択 記述 論述	都市・村落と人口	問1では、愛知県庁から県境まで地図上で直線を引き作成した地形断面図とリード文に関して、職住分離の説明、市民農園が、旧来の農地を利用して開設された理由、限界集落についての用語説明、現在の日本で一般的に取り組まれている事柄、地域活性化の方策として、現在の日本で一般的に取り組まれている事柄について問われた。問2では、日本の都市の中から人口40万人を超える3つの都市(豊田市、金沢市、豊中市)に関する人口、人口の社会増減率、昼夜間人口比率などの6つの指標を示した表をもとに、都市判定、それぞれの都市の特徴について、相互に比較して300字以内での説明が求められた。従来はなかった比較論述の300字に戸惑った受験生は多いのではないかと推察される。	やや難

地歴公民(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部(人間・社会情報学科)(前期) 2 / 2

III	選択 記述 論述	人口・経済・環境	問1では、アジア、アフリカ、北アメリカ、南アメリカにおける日本人の長期滞在者を職業別に示したグラフに関する地域判定。問2では、ブラジルを含む4か国(2022年の生産上位4国)の生産量の推移のグラフをもとに、ブラジルの判定、ブラジルにおける元々「不毛の地」と呼ばれた地域が世界有数の生産地域に発展した理由、この大豆生産地のケッペンの気候区名が問われた。問3では、都市と自然環境について、F1(フォーミュラワン)の開催地の一部を示した表をもとに、酸素濃度の観点から最も内燃機関に負荷のかかる都市の選択、この都市において大気汚染の問題が深刻化したことへの対策としての取り組みについて問われた。問4では、高山都市が低緯度地域に発達している背景の説明、自然環境と資源に関する文章中の空欄補充問題が出題された。問5では、アメリカ合衆国の各州の人口に占めるヒスパニックの人口割合の図をもとに、人口分布の特徴の説明が求められた。いずれも教科書に準拠した基本的な設問である。	標準
-----	----------------	----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

自然、社会、産業などの重要テーマについて、教科書レベルの知識をもとに分布図や統計表を読み取らせて論述させる問題が中心である。そのため、地理用語や地名とその地図上の位置などの地理の基本的な知識だけでなく、自然は成因から、社会・産業は背景から説明できるような地理的見方・考え方を身につける必要がある。教科書をよく読みこなし、参考書などで補足しながら、地理用語や地理的事象を100~200字程度の文章で説明する練習を繰り返し行うことが効果的である。描図問題は、グラフの作成や地図への記入などのほか、白地図や地形図の作成なども出題され多彩であるので、地図帳をよく見しておくとともに過去問の研究もしておくことよい。地形図の読図は、難易度の高い問題が多いため、過去問を見て傾向を把握し、対策を行っておきたい。時事問題も出題されたことがあるので、機会があれば新聞やテレビのニュース特集などを見て、世界で起こっている出来事や問題などに興味・関心を持っておこう。